

動物生態学Ⅰ

（授業概要・目的）

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義では昆虫からは乳類、植物など幅広く紹介しながら、動物の生態を解説する。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	ワイルド・アニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

- ・生物分類技能検定 4 級の合格

後期

- ・生物分類技能検定 4 級の合格
- ・自然環境下での生態を理解したうえで、飼育管理ができるようになる。
- ・飼育動物にストレスを与えないような、環境エンリッチメントを考えることができるようになる。

授業計画

- 1 回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2 回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3 回 生物の系統①（原核生物、原生生物とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 4 回 生物の系統②（菌界、植物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 5 回 生物の系統③（植物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 6 回 生物の系統④（動物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 7 回 生物の系統⑤（動物界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 8 回 植物のスケッチの基本（葉脈、花の特徴）
- 9 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説①
- 10 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説②
- 11 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説③
- 12 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説④
- 13 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑤
- 14 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑥
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 前期期末試験の振り返り
- 夏休み中（2024 年度は 8/1～9/27）に生物分類技能検定 4 級を受験
- 17 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑦
- 18 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑧
- 19 回 生物分類 4 級 過去問練習、解説⑨
- 20 回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）

21 回 生物と環境②（作用：アレンの法則）
22 回 生物と環境③（反作用）
23 回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）
24 回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）
25 回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
26 回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
27 回 本試験テスト対策①（過去問の振り返り、確認）
28 回 本試験テスト対策②（過去問の振り返り、確認）
29 回 本試験の解答と解説
30 回 擬態と擬装について（種内競争：眼状紋、制服擬態）
31 回 擬態と擬装について（偽物型擬態、攻撃擬態）
32 回 異種間との関係（共生：相利共生、片利共生、片害）
33 回 異種間との関係（中立、寄生）、生態系における異種間との種間関係の意義
34 回 後期期末試験
35 回 後期期末試験の振り返り

授業の方法

具体例を用いて講義する

教材・

生物分類技能検定 4 級の過去問、生物図表

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

授業だけではなく、身近な自然、生物に関心を持って観察する

実務経験と授業科目の関係

生物分類技能検定をもっている、環境省のみどりの環境調査の調査責任者をした経験がある

基礎生物学

(授業概要)

高校生物の復習を基本に、将来的に関わる動植物についてより深く理解するための下地をつくる。
細胞、組織、臓器といった生体の構成成分を各階層で理解する。

科	生命科学科	教員	三輪
コース	ワイルド・アニマルコース	教員の業務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

前期

生体を構成する細胞をはじめとし、組織、遺伝子、主な臓器について理解する。

後期

免疫の仕組み、神経系、感覚器、生物の分類について学ぶ。

授業計画

- 1回 細胞の構造（1）
- 2回 細胞の構造（2）
- 3回 生体を構成する物質
- 4回 タンパク質、酵素
- 5回 動物の組織と器官
- 6回 遺伝子とゲノム
- 7回 体細胞分裂
- 8回 遺伝情報の発現
- 9回 減数分裂
- 10回 遺伝・メンデルの法則
- 11回 恒常性、体液、循環器系
- 12回 動物の循環、循環器系
- 13回 肝臓の働き、腎臓の働き
- 14回 腎臓の働き、消化器系の働き
- 15回 まとめ
- 16回 前期期末試験
- 17回 前期期末試験返却、答え合わせ
- 18回 生体防御（1）
- 19回 生体防御（2）

20 回 神経系
21 回 感覚器（視覚、聴覚、平衡感覚）
22 回 感覚器（味覚、嗅覚、皮膚感覚）
23 回 まとめ
24 回 内分泌系
25 回 糖尿病と血糖値
26 回 自律神経（交感神経・副交感神経）
27 回 自習
28 回 生物の分類
29 回 生物の系統樹、ドメイン
30 回 原核生物界、原生生物界
31 回 植物界
32 回 動物界
33 回 まとめ
34 回 後期期末試験
35 回 後期期末試験返却、答え合わせ

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

教材と板書

きょうざい
教材

浜島書店『生物図表』

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 80%、じょうたんと 平常点 20%（しゅっせきりつ 出席率、じゅぎょうたいど 授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

ビジネスマナー

(授業概要)

前期においてはインターンシップに備え履歴書・挨拶状・お礼状・封筒の宛名が一人で書けるようになる事。
後期については今後の就職活動を見据えて、名刺交換・電話対応・席次・などの基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになること。

科	生命科学科	教員	荻野 将士
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

履歴書・挨拶状・お礼状・封筒の宛名が一人で書けるようになる

後期

就職活動を見据え、基本的なビジネスマナーが一人で実践できるようになる

授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 校舎見学/受付の利用方法/校内でのエレベータの使い方
- 3回 履歴書の書き方①(個人情報の書き方について)
- 4回 履歴書の書き方②(学歴/職歴)
- 5回 履歴書の書き方③(自己紹介書)
- 6回 履歴書の書き方④(自己紹介書)
- 7回 挨拶文の書き方①
- 8回 挨拶文の書き方②
- 9回 お礼状の書き方①
- 10回 封筒の宛名の書き方①
- 11回 課題実施①(履歴書・挨拶状・お礼状作成)
- 12回 課題実施②(履歴書・挨拶状・お礼状作成)
- 13回 課題実施③(履歴書・挨拶状・お礼状作成)
- 14回 課題実施④(履歴書・挨拶状・お礼状作成)
- 15回 課題実施⑤(履歴書・挨拶状・お礼状作成)
- 16回 前期期末試験
- 17回 前期期末試験返却、電話応対①
- 18回 電話応対②(実践)
- 19回 電話対応③(実践)
- 20回 席次①
- 21回 席次②(実践)
- 22回 ビジネスメール①
- 23回 ビジネスメール②(署名作成)

- 24 回 名刺交換①
- 25 回 名刺交換②(実践)
- 26 回 入退室の仕方/お辞儀について①
- 27 回 入退室の仕方/お辞儀について②
- 28 回 面接マナー①
- 29 回 面接マナー②
- 30 回 敬語について①
- 31 回 敬語について②
- 32 回 求人票の見方①
- 33 回 求人票の見方②
- 34 回 後期期末試験
- 35 回 後期期末試験返却、解説

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義/問題演習/実践

きょうざい
教材

資料配布

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

ビジネスマナーに関する書籍/参考動画の閲覧

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

○

動物関連法規学Ⅰ

(授業概要)

狂犬病予防法、動物愛護法を中心に家庭で飼育または動物に関わる仕事に就く上で知っておくべき各種動物に関する法律について学ぶ。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

後期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3回 狂犬病予防法 (1) 狂犬病とは その1
- 4回 狂犬病予防法 (2) 狂犬病とは その2
- 5回 狂犬病予防法 (3) 狂犬病清浄国・地域について
- 6回 狂犬病予防法 (4) 狂犬病予防法の概要 その1 法の概要、目的
- 7回 狂犬病予防法 (5) 狂犬病予防法の概要 その2 対象動物、輸入禁止動物 (感染症法)
- 8回 狂犬病予防法 (6) 狂犬病予防法の概要 その3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9回 狂犬病予防法 (7) 狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10回 動物が亡くなった場合 (1) 動物や動物の死体の法的立場
- 11回 動物が亡くなった場合 (2) 廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12回 前期期末試験
- 13回 前期期末試験返却
- 14回 動物が亡くなった場合 (3) 人の墓に動物を入れることはできるのか その1
- 15回 動物が亡くなった場合 (3) 人の墓に動物を入れることはできるのか その2
- 16回 動物愛護法 (1) 法律の成立背景その1
- 17回 動物愛護法 (2) 法律の成立背景その2
- 18回 動物愛護法 (3) 目的
- 19回 動物愛護法 (4) 基本原則
- 20回 動物愛護法 (5) 動物の飼い主の責任 その1
- 21回 動物愛護法 (6) 動物の飼い主の責任 その2
- 22回 動物愛護法 (7) 動物虐待に対する罰則 その1

- 23 回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その 2
- 24 回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その 1
- 25 回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その 2
- 26 回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その 3
- 27 回 後期期末試験
- 28 回 後期期末試験返却
- 29 回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その 4
- 30 回 動物愛護法（13）第 2 種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 31 回 動物愛護法（14）特定動物 その 1
- 32 回 動物愛護法（15）特定動物 その 2
- 33 回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 34 回 動物愛護法（17）自治体の役割
- 35 回 1 年総復習

じゅぎょう ほうほう
授 業 の 方 法

講義

きょうざい
教 材

テキスト、自作のプリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん しゅっせきりつ じゅぎょうたいど
期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授 業 外 で の 学 習 方 法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

自然環境保全学

(授業概要・目的)

現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えている。自然が再生不可能なペースで破壊され続けているのが現状である。より持続可能な社会を実現するためには、1年次は自然生態系の特性を理解することが重要である。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

前期

我が国の森林、土壌、河川などの現状を知って理解することが重要である。自然には微力ながら浄化する能力があるが、どのようにしてきれいになっていくかのメカニズムを理論や実例を用いながら講義をしていく予定である。

後期

我が国の海洋（砂浜、磯浜、干潟）やマングローブ、サンゴ礁などの生態系についても、現状と問題点に触れながら講義する。またそれらの生態系に生息する生物間の関係（種内競争、種間競争）などについて具体例を用いながら説明する。

授業計画

- 1回 日本の自然（森林：原生林、人工林）
- 2回 植生遷移（一次林～極相林）、森林が持つ機能
- 3回 国有林と民有林、拡大造林（戦後）と現在の造林の実態
- 4回 土壌の構造と植物
- 5回 西表出張の為自習（自習課題配布予定）
- 6回 様々な植物（C3植物、C4植物、CAM植物）
- 7回 西表島実習 学内での事前授業①（地質、気候、文化）
- 8回 西表島実習 学内での事前授業②（植生、生物の特徴）
- 9回 西表島実習 学内での事前授業③（植生、生物の特徴）
- 10回 窒素循環のメカニズムと河川①（特徴、物理的特徴）
- 11回 窒素循環のメカニズムと河川②（特徴、物理的特徴）
- 12回 自然界での川の水質浄化メカニズム①（硝化細菌と脱窒菌の働き）
- 13回 自然界での川の水質浄化メカニズム②（硝化細菌と脱窒菌の働き）
- 14回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係①
- 15回 前期期末試験
- 16回 前期期末試験の振り返り
- 17回 土壌中のフルボ酸鉄と植物、海草、海藻の関係②
- 18回 海洋 潮汐とは（大潮～小潮、潮上帯～潮下帯、带状分布）
- 19回 マングローブ林生態系（種の特徴、多様性、環境特性、現状）
- 20回 サンゴ礁生態系（種の多様性、環境特性、白化現象、オニヒトデ問題）

21 回 干潟生態系（環境特性、渡り鳥、法律）
22 回 砂浜、岩礁海岸、草原、砂漠の生態系
23 回 生態系サービスとは
24 回 生物多様性とは（遺伝子、種、生態系）
25 回 種内競争①（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
26 回 種内競争②（自己間引き、干渉型競争：なわばり・行動圏）
27 回 種間競争①（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
28 回 種間競争②（植物間、動物間：競争、捕食、相利共生、片理共生、寄生、片害）
29 回 健全な生態系とは
30 回 移入種とは（移入経路、在来種への影響）
31 回 特定外来生物とは①（在来種との関係）
32 回 特定外来生物とは②（法律での規制）
33 回 乱獲、過剰利用（食料、薬、嗜好品、娯楽）
34 回 後期期末試験
35 回 後期期末試験の振り返り

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

実例を紹介しながら講義（プロジェクター、コンピューター）

きょうざい 教材・

ビオトープ管理士 2 級

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

本講義で学習した内容を自身でも復習して、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

環境省のみどりの環境調査の調査責任者をした経験を踏まえて講義する

基礎健康管理学Ⅰ

（授業概要）

犬や猫など身近な動物を中心に日常的な健康管理や予防について学ぶ。

科	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について学び、正常時と異常時の違いを理解する。

後期

引き続き健康学と予防について学び、またそれらを基礎とし、代表的な疾患について理解する。

授業計画

- 1回 自己紹介 授業について
- 2回 散歩、運動
- 3回 排尿、排便
- 4回 全身の手入れ①
- 5回 全身の手入れ②
- 6回 全身牡手入れ③
- 7回 希釈の計算
- 8回 熱中症について①
- 9回 熱中症について②
- 10回 犬の登録
- 11回 狂犬病とは①
- 12回 狂犬病とは②
- 13回 混合ワクチン①
- 14回 混合ワクチン②
- 15回 口腔衛生①
- 16回 口腔衛生②
- 17回 試験前復習
- 18回 前期期末試験
- 19回 前期期末試験返却
- 20回 避妊去勢①
- 21回 避妊去勢②

22 回 フィラリア予防①
 23 回 フィラリア予防②
 24 回 フィラリア予防③
 25 回 外部内部寄生虫①
 26 回 外部内部寄生虫②
 27 回 外部内部寄生虫③
 28 回 外部内部寄生虫④
 29 回 外部内部寄生虫⑤
 30 回 外部内部寄生虫⑥
 31 回 同行避難
 32 回 同行避難
 33 回 試験前復習
 34 回 後期期末試験
 35 回 後期期末試験返却

授業の方法

座学、グループワーク

教材

作成資料(コンパニオンアニマルの新健康管理学より)

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20% (出席率、授業態度等)

授業外での学習方法

なし

実務経験と授業科目の関係

あり(動物看護師)

公衆衛生学Ⅰ

(授業概要)

近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症である。人、動物、環境の健康は一体として守るべきもの（ワンヘルス）との考え方を基本として、人と動物の健康保持・推進のため人獣共通感染症について学習する。さらに、動物由来の食品等が原因となることが多い食中毒についても学習する。

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	35

目標

前期

公衆衛生の基本となる国民衛生の動向、感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、防疫等）について学ぶ。
人獣共通感染症のうち、細菌及び寄生虫（線虫）を原因とするものについて学ぶ。

後期

人獣共通感染症のうち、寄生虫（吸虫、条虫）、ウイルス、真菌を原因とするものについて学ぶ。
感染症を媒介することが多い衛生害虫（蚊、ダニ、ノミ等）について学ぶ。
食中毒と食品による危害防止を目的とする食品衛生法について学ぶ。

授業計画

- 1回 公衆衛生とは
- 2回 国民衛生の動向
- 3回 疫学と疾病予防
- 4回 感染症の基礎1（病原体）
- 5回 感染症の基礎2（病原体）
- 6回 感染症の基礎3（感染と予防）
- 7回 人獣共通感染症総論
- 8回 細菌性人獣共通感染症1
- 9回 細菌性人獣共通感染症2
- 10回 細菌性人獣共通感染症3
- 11回 細菌性人獣共通感染症4
- 12回 細菌性人獣共通感染症5
- 13回 寄生虫性人獣共通感染症1
- 14回 寄生虫性人獣共通感染症2
- 15回 前期まとめ
- 16回 前期期末試験
- 17回 答案返却、解説
- 18回 寄生虫性人獣共通感染症3
- 19回 寄生虫性人獣共通感染症4

- 20 回 寄生虫性人獣共通感染症 5
- 21 回 ウイルス性人獣共通感染症 1
- 22 回 ウイルス性人獣共通感染症 2
- 23 回 ウイルス性人獣共通感染症 3
- 24 回 ウイルス性人獣共通感染症 4
- 25 回 ウイルス性人獣共通感染症 5
- 26 回 狂犬病
- 27 回 真菌性人獣共通感染症、公衆衛生上重要な衛生昆虫
- 28 回 新興感染症・再興感染症 1
- 29 回 新興感染症・再興感染症 2
- 30 回 食品衛生法の概要
- 31 回 食中毒 1
- 32 回 食中毒 2
- 33 回 食中毒 3
- 34 回 後期まとめ
- 35 回 後期期末試験
- 35 回 答案返却、解説

授業の方法

自作のテキスト、パワーポイントによる講義

教材

なし

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業外での学習方法

参考書、厚生労働省等公的機関のウェブサイト等により知識や最新情報を習得する

実務経験と授業科目の関係

あり（公衆衛生獣医師として保健所等で公衆衛生行政に従事）

動物園学Ⅰ

(授業概要)

動物園の歴史、社会的役割（種の保存、環境教育、調査研究、娯楽）、動物園・水族館の展示手法、動物飼育にあたっての基礎知識（飼育あらし、動物福祉、エンリッチメントなど）を理解する

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	ワイルド・アニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

西欧と日本の動物園の歴史について学習する

現在の日本の動物園の現状と課題について学習する

動物園や水族館での展示手法や飼育係、獣医師の役割について学習する

後期

動物園での保全生物学、野生復帰について学習する

動物福祉、エンリッチメントについて学習する

授業計画

- 1回 動物園の役割
- 2回 動物園の飼育動物
- 3回 西欧の動物園の歴史
- 4回 世界の動物園（DVD シェーンブルン動物園 前半）
- 5回 世界の動物園（DVD シェーンブルン動物園 後半）
- 6回 日本の動物園の歴史
- 7回 日本の動物園の歴史（DVD）
- 8回 動物園の課題
- 9回 飼育施設と展示 1
- 10回 飼育施設と展示 2
- 11回 動物園の飼育係 1
- 12回 動物園の飼育係 2
- 13回 動物園の獣医師
- 14回 前期まとめ
- 15回 前期期末試験
- 16回 答案返却、解説
- 17回 世界の動物園（DVD チューリッヒ動物園 前半）
- 18回 世界の動物園（DVD チューリッヒ動物園 後半）
- 19回 動物園の調査研究 1
- 20回 動物園の調査研究 2

- 21 回 動物園の保全生物学（野生動物の現状）
- 22 回 動物園の保全生物学（野生生物を絶滅から守る取り組み）
- 23 回 動物園の保全生物学（動物園の役割）
- 24 回 野生復帰へのとりくみ
- 25 回 DVD ジャイアントパンダの野生復帰
- 26 回 動物福祉/アニマルウェルフェア
- 27 回 DVD 動物園での動物福祉の取り組み
- 28 回 動物園でのエンリッチメント
- 29 回 動物園での個体識別と情報管理
- 30 回 DVD 日本の動物園・水族館
- 31 回 震災と動物園
- 32 回 動物園とは何だろう
- 33 回 後期期末試験
- 34 回 答案返却、解説
- 35 回 1 年間のまとめ

授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の視聴

教材

テキスト、DVD

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

身近な動物園や水族館へ行き、授業内容を深める

実務経験と授業科目の関係

動物園副園長及び動物園獣医師としての実務経験を踏まえて授業を行う

動物機能形態学Ⅰ

(授業概要)

地球上の生物は多様であり、それぞれが生息環境に合わせて様々な進化を遂げてきた。
飼育員が動物の健康をまもっていくためには、動物の体のしくみを知ることが必要不可欠である。
この授業では、哺乳類と鳥類の体のしくみ（機能と形態）を学ぶ。

科	生命科学科	きょういん 教 員	笹野 聡美
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

動物の体のつくりを学ぶ。

哺乳類の骨、筋肉、皮膚や爪、角などの構造と役割を理解し、飼育管理に生かせるようになる。

後期

哺乳類の感覚器や内臓、鳥類の体のしくみを学び、飼育管理に生かせるようになる。

授 業 計 画

- 1 回 講師の自己紹介。この授業の目的と目標
- 2 回 哺乳類の骨、全身骨格
- 3 回 哺乳類の骨、各論
- 4 回 哺乳類の骨、関節
- 5 回 消化器、歯の構造
- 6 回 様々な歯、食性による歯の違い
- 7 回 嚥下のしくみ
- 8 回 食道の構造と役割
- 9 回 胃の構造と役割
- 10 回 試験対策
- 11 回 前期期末試験
- 12 回 試験解説
- 13 回 様々な胃
- 14 回 腸の構造と役割
- 15 回 様々な腸
- 16 回 前胃発酵動物と後腸発酵動物
- 17 回 草食動物の食性 ブラウザーとグレーザー
- 18 回 植物の栄養
- 19 回 肉食動物の食べ物
- 20 回 肝臓と膵臓の構造と役割
- 21 回 本当の消化
- 22 回 泌尿器の構造、動物はなぜ尿を出すのか
- 23 回 泌尿器、腎臓の構造

- 24 回 尿が出るまで
- 25 回 試験対策
- 26 回 後期期末試験
- 27 回 試験の解説
- 28 回 肺の構造と役割
- 29 回 なぜ血液が必要か
- 30 回 感覚器、眼の構造と動物の特殊な視覚
- 31 回 感覚器、耳の構造と動物の特殊な聴覚
- 32 回 感覚器、鼻の構造と動物の特殊な嗅覚
- 33 回 鳥類の体、飛行するための構造
- 34 回 鳥類の体、羽根の構造、役割、色
- 35 回 鳥類の体、内臓

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

パワーポイントによるオンデマンド授業および対面授業

きょうざい 教材

特にありません。

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

動物や生物系の書籍を読んで下さい。動物園や博物館を見学して下さい。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

経歴：秋吉台自然動物公園獣医師、グアテマラ野生動物保護センター獣医師。現在：往診専門獣医療開業（対象動物：観光施設展示動物園・愛玩動物、野生動物）、野生動物医学会会員、野生動物保全繁殖研究会理事。 出版（翻訳、監訳）：「野生動物医学」「インコとオウムの行動学（監訳）」「鳥類の人工孵化と育雛（編集・監訳）」

両生爬虫類学Ⅰ

（授業概要）

両生類と爬虫類は、世界中に広く分布し、生態学的な役割が重要であり、近年でもペットとして飼われる傾向も上がっている。また、両生爬虫類は経済、医療、社会文化など様々な価値があり、人間との関係性も従来から深く築いている。本授業では、生態学を視座として、両生爬虫類における動物学的特徴、生息地や保全状況などの基礎知識を知り、人間との関係性について理解し、最終的に娯楽として、基礎的な両生類・爬虫類の飼い方を学ぶ。

科	生命科学科	きょういん 教員	潘 之甫
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1 年次	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

前期

両生類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

両生類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

両生類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

後期

爬虫類の特徴、分類、多様性、調査方法と保全現状について包括的に理解する。

爬虫類の社会・文化・経済・医療的価値などについて包括的に理解する。

爬虫類の飼育環境と飼育方法について学ぶ。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション、本講義について
- 2 回 両生類の特徴
- 3 回 両生類の分類、多様性 1
- 4 回 両生類の分類、多様性 2
- 5 回 両生類の行動生態
- 6 回 両生類の調査方法
- 7 回 両生類の保全現状
- 8 回 両生類の様々な価値
- 9 回 両生爬虫類の変温特性について
- 10 回 両生類の飼育環境・飼育方法について 1
- 11 回 両生類の飼育環境・飼育方法について 2
- 12 回 爬虫類の特徴（有鱗目）
- 13 回 爬虫類の分類（有鱗目）
- 14 回 爬虫類の多様性（有鱗目）
- 15 回 2 学期に向けて

- | | |
|------|-----------------------|
| 16 回 | 試験対策 1 |
| 17 回 | 試験対策 2 |
| 18 回 | 前期期末試験 |
| 19 回 | 試験返却 |
| 20 回 | 両生爬虫類の進化について |
| 21 回 | 爬虫類の特徴・分類（カメ目） |
| 22 回 | 爬虫類の多様性（カメ目） |
| 23 回 | 爬虫類の特徴（ワニ目） |
| 24 回 | 爬虫類の分類（ワニ目） |
| 25 回 | 爬虫類の多様性（ワニ目） |
| 26 回 | 爬虫類の調査方法 |
| 27 回 | 爬虫類の保全現状、保全にできること |
| 28 回 | 爬虫類の生態系サービスについて |
| 29 回 | 爬虫類の飼育環境・飼育方法（トカゲ・ヘビ） |
| 30 回 | 爬虫類の飼育環境・飼育方法（カメ） |
| 31 回 | 学術文献の調べ方 |
| 32 回 | 学術文献のまとめ方 |
| 33 回 | これまでの振り返り、試験対策 1 |
| 34 回 | 試験対策 2 |
| 35 回 | 後期期末試験、試験フィードバック |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
講義、演習

きょうざい 教材
両生類・爬虫類のふしぎ（サイエンス・アイ新書 84） Amphibians and reptiles (Naturalists' Handbooks Book 31) (English Edition) ※必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう 評価の方法
期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
台湾・台北市立木柵動物園保全研究センターでの実務経験。日本環境教育学会員。

エキゾチックアニマルⅠ

（授業概要）

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要4種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	金田・田中・材井
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得する。ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明できるようになる。また、それらを通し飼育動物の基礎を固める。

授業計画

- 1回 エキゾチックアニマルとは
- 2回 ペットの適性について
- 3回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4回 ハムスターについて（体の特徴）
- 5回 ハムスターについて（体の特徴）
- 6回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8回 ハムスターについて（繁殖）
- 9回 ハムスターについて（病気）
- 10回 ハムスターについて（病気）
- 11回 ウサギについて（分類・歴史）
- 12回 ウサギについて（体の特徴）
- 13回 ウサギについて（体の特徴）
- 14回 試験対策
- 15回 前期期末試験
- 16回 試験返却
- 17回 ウサギについて（生理的な特徴）

- 18回 ウサギについて（飼育方法）
- 19回 ウサギについて（病気）
- 20回 ウサギについて（病気）
- 21回 モルモットについて（分類・歴史）
- 22回 モルモットについて（体の特徴）
- 23回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 24回 モルモットについて（飼育方法・繁殖）
- 25回 モルモットについて（繁殖）
- 26回 モルモットについて（病気）
- 27回 モルモットについて（病気）
- 28回 フェレットについて（分類・歴史）
- 29回 フェレットについて（体の特徴）
- 30回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 31回 試験対策
- 32回 後期期末試験
- 33回 試験返却
- 34回 フェレットについて（飼育方法）
- 35回 フェレットについて（病気）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

家畜学 I

(授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	35

目標

家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようになっているのかを理解する。
家畜動物であるウシおよびブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

家畜動物であるブタおよびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

- 1 回 家畜動物の定義
- 2 回 ウシの概要について①
- 3 回 ウシの概要について②、ウシの体の構造について①
- 4 回 ウシの体の構造について②
- 5 回 ウシの体の構造について③
- 6 回 ウシの品種について、ウシの飼育について①
- 7 回 ウシの飼育について②
- 8 回 ウシの飼育について③
- 9 回 ウシの疾患について①
- 10 回 ウシの疾病について②
- 11 回 ブタの概要について①
- 12 回 ブタの体の構造について①
- 13 回 ブタの体の構造について②
- 14 回 試験対策
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 試験返却・解説
- 17 回 ブタの品種について、ブタの飼育について①
- 18 回 ブタの飼育について②
- 19 回 ブタの飼育について③

- 20 回 ブタの疾病について①
- 21 回 ブタの疾病について②
- 22 回 ウマの概要について
- 23 回 ウマの体の構造について①
- 24 回 ウマの体の構造について②
- 25 回 ウマの品種について①
- 26 回 ウマの品種について②、ウマの飼育について①
- 27 回 ウマの飼育について②
- 28 回 ウマの飼育について③
- 29 回 ウマの疾病について①
- 30 回 ウマの疾病について②
- 31 回 試験対策
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 試験返却・解説
- 34 回 ニワトリの概要について①
- 35 回 ニワトリの概要について②

授業の方法

講義

教材

家畜動物の基礎（教科書）、自作プリント

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

授業外での学習方法

なし

実務経験と授業科目の関係

あり

ワイルド実習

(授業概要)

イベント準備や特別講義を行い、就職の視野を広めたりインターンシップに向けての準備を行う

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	35×4

目標

- 1、学校の仕組みやインターンシップを理解し、積極的に行動できるようになる。
- 2、積極的にイベントに取り組み、協調性を養う

授業計画

- 1回 学生要覧説明、年間スケジュール確認
- 2回 面談
- 3回 面談
- 4回 面談
- 5回 面談
- 6回 インターンシップ説明会
- 7回 面談
- 8回 面談
- 9回 面談
- 10回 スポーツ大会準備
- 11回 スポーツ大会準備
- 12回 試験について説明
- 13回 長期休暇事前説明
- 14回 イベント企画・準備
- 15回 イベント企画・準備
- 16回 イベント企画・準備
- 17回 イベント企画・準備
- 18回 イベント企画・準備
- 19回 就職活動事前準備
- 20回 企業説明会事前説明
- 21回 面談
- 22回 面談
- 23回 面談
- 24回 ゼミ説明
- 25回 イベント企画・準備
- 26回 イベント企画・準備

27 回 イベント企画・準備
28 回 イベント企画・準備
29 回 イベント企画・準備
30 回 イベント企画・準備
31 回 後期試験説明会
32 回 イベント企画・準備
33 回 イベント企画・準備
34 回 一年振り返り、2 年生事前説明
35 回 自主学習日（課題）

講義・イベント準備

きょうざい
教材

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

アナウンス演習Ⅰ

(授業概要)

動物園や自然ガイド、観光牧場に必要となる接客の際に必要な話し方や、立ち振る舞いを身に付ける。

科	生命科学科	教員	細見
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2コマ

目標

前期・表現する楽しさを知る ・表情の豊かさを身に付ける ・正しい発声ができるようになる

・1分程度の説明を、分かりやすく人に伝えることができる

後期・発想力を豊かにする ・5分程度の生き物解説ができるようになる。

授業計画

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 表情の練習、履歴書写真の撮り方について、喜怒哀楽の表現方法について
- 3回 正しい姿勢、歩き方について
- 4回 腹式呼吸、自分の出しやすい音の高さについて
- 5回 身体を使った表現 ～ジェスチャーゲーム～
- 6回 ショーパフォーマーとは
- 7回 好きなもの、嫌いなものについて 準備
- 8回 好きなもの、嫌いなもの 発表
- 9回 好きなもの嫌いなもの 発表
- 10回 接客演習 準備
- 11回 接客演習 本番1
- 12回 接客演習 本番2
- 13回 接客演習 本番3 夏休み課題 早口言葉 滑舌練習
- 14回 後期目標 早口言葉 発表1
- 15回 後期の目標発表 早口言葉 発表2
- 16回 後期の目標発表 早口言葉 発表3
- 17回 後期の目標発表 早口言葉 発表4
- 18回 自然物の発表1
- 19回 自然物の発表2
- 20回 自然物の発表3
- 21回 ショー分析1
- 24回 ショー分析2
- 25回 解説分析1
- 26回 解説分析2
- 27回 飼育棟動物解説準備1
- 28回 飼育棟動物解説準備2
- 29回 飼育棟動物解説準備3
- 30回 ヒーローインタビュー エチュード1
- 31回 ヒーローインタビュー エチュード2

32 回	自己PRについて	
33 回	自己PRについて	発表 1
34 回	自己PRについて	発表 2
35 回	自己PRについて	発表 3

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題演習、実演、グループワーク、プレゼン

きょうざい
教材

動画、生体、自然物など

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

動物園や水族館に行ったり、動画を見てショーや解説の研究を行う

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

生体管理概論・実習Ⅰ

（授業概要）

飼育棟や地下水族館などにおいて、小動物や家畜動物、水生生物に関する知識を応用とした飼育実践を行う。掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理といった基礎を実施する。

科	生命科学科	教員	金田・田中・材井・姉崎
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2コマ

目標

前期

飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測をおこなない、常に万が一のことを考えて行動することができるようになる。一緒に活動するメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談ができるようになる。

後期

前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。

授業計画

- 1回 生体管理についての説明
- 2回 飼育棟管理についての説明
- 3回 飼育棟管理および地下管理について
- 4回 飼育棟管理および地下管理について
- 5回 飼育実習・地下管理実習
- 6回 飼育実習・地下管理実習
- 7回 飼育実習・地下管理実習
- 8回 飼育実習・地下管理実習
- 9回 飼育実習・地下管理実習
- 10回 飼育実習・地下管理実習
- 11回 飼育実習・地下管理実習
- 12回 飼育実習・地下管理実習
- 13回 前期期末試験
- 14回 試験返却
- 15回 飼育実習・地下管理実習
- 16回 飼育実習・地下管理実習
- 17回 飼育実習・地下管理実習
- 18回 飼育実習・地下管理実習

19回 飼育実習・地下管理実習
20回 飼育実習・地下管理実習
21回 飼育実習・地下管理実習
22回 飼育実習・地下管理実習
23回 飼育実習・地下管理実習
24回 飼育実習・地下管理実習
25回 飼育実習・地下管理実習
26回 飼育実習・地下管理実習
27回 後期期末試験
28回 試験返却
29回 飼育実習・地下管理実習
30回 飼育実習・地下管理実習
31回 飼育実習・地下管理実習
32回 飼育実習・地下管理実習
33回 飼育実習・地下管理実習
34回 飼育実習・地下管理実習
35回 飼育実習・地下管理実習

講義・生体管理実践

きょうざい
教材

自作プリント、教科書

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

トレーニング概論・実習Ⅰ

（授業概要）人と犬とのより良い共生生活に必要な家庭犬としてのしつけやマナーについて学びます。
犬のトレーニングを通して動物への行動の教え方を学びます。

科	生命科学科	教員	釘宮
コース	ワイルドアニマル	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35×2 コマ

目標

前期

家畜化された犬の歴史を学び犬種に対する知識を深めます。
犬種による特性と行動、学習の仕方について学びます。
人間や人間社会に慣れるために仔犬期に何を行わないといけなから学びます。

実技【・リードの付け外し・ケージへの入れ方・アイコンタクト・ターゲットタッチ】

後期

犬のボディシグナルを学ぶことで犬の意思や気持ちを理解することができます。
犬のストレスの原因と解消の仕方を学ぶことができます。

実技【・お座り、伏せ、立て・ヒールポジション・待て】

授業計画

- 1回 4/15 オリエンテーション
- 2回 4/22 散歩の仕方
- 3回 5/13 家庭犬のトレーニング 実技①
- 4回 5/20 家庭犬のトレーニング 実技②
- 5回 5/27 犬の進化と家畜化
- 6回 6/3 犬の気質/犬種研究
- 7回 6/10 家庭犬のトレーニング 実技③
- 8回 6/17 脳と行動の関係
- 9回 6/24 家庭犬のトレーニング 実技④
- 10回 7/1 仔犬の社会化
- 11回 7/8 家庭犬のトレーニング 実技⑤
- 12回 7/15 社会的階級制度
- 13回 7/22 家庭犬のトレーニング実技⑥
- 14回 8/26 ハンドリングテストリハーサル
- 15回 9/2 筆記テスト・実技テスト
- 16回 9/9 テスト返却・説明

17 回 9/16 家庭犬のトレーニング 実技⑦
 18 回 9/30 家庭犬のトレーニング 実技⑧
 19 回 10/7 犬の言葉/ボディシグナル(1)
 20 回 10/14 犬の言葉/ボディシグナル(2)
 21 回 10/21 家庭犬のトレーニング 実技⑨
 22 回 10/28 家庭犬のトレーニング 実技⑩
 23 回 11/4 社会的闘争の解決(1)
 24 回 11/11 家庭犬のトレーニング 実技⑪
 25 回 11/18 社会的闘争の解決(2)
 26 回 12/2 家庭犬のトレーニング 実技⑫
 27 回 12/9 犬のストレス
 28 回 12/16 家庭犬のトレーニング 実技⑬
 29 回 1/6 カーミングシグナル
 30 回 1/13 個人空間・咬む犬
 31 回 1/20 ハンドリングテストリハーサル
 32 回 1/27 筆記テスト・ハンドリングテスト
 33 回 2/3 テスト返却・解説
 34 回 2/10 家庭犬のトレーニング 実技⑭
 35 回 2/17 家庭犬のトレーニング 実技⑮

授業の方法

講義 実習

教材

犬のしつけ方教室 テリーライアン著

評価の方法

期末試験80% 授業毎に記入する実習記録 20%

授業外での学習方法

実務経験と授業科目の関係

動物病院にてしつけ方教室を実施している

コンピューター実習

（授業概要）

本講義では、Microsoft Word を用いたビジネス文書の作成、Excel を用いた表計算とグラフ作成、PowerPoint を用いた基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行えるようになることを目的とする。

科	生命科学科	教員	大西 望
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35

目標

前期

タッチタイピングが行える。

Microsoft Word を使用して、基本的なビジネス文書の作成が行える。

後期

Microsoft Excel を使用して、数式・関数を用いた計算と、グラフの作成が行える。

Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行える。

授業計画

- 1 回 授業概要
- 2 回 タイピング基礎
- 3 回 文字の入力と変換
- 4 回 Word 基本操作、画面構成
- 5 回 ページ設定、文章入力、文字の編集
- 6 回 フォントの設定、段落設定、箇条書き
- 7 回 課題（1）
- 8 回 グラフィック機能（1）；ワードアート、画像
- 9 回 グラフィック機能（2）；文字の効果、ページ罫線
- 10 回 グラフィック機能（3）；図形、SmartArt
- 11 回 表の作成と編集（1）
- 12 回 表の作成と編集（2）
- 13 回 表の作成と編集（3）
- 14 回 課題（2）
- 15 回 前期復習
- 16 回 Word 確認テスト
- 17 回 Word 確認テスト振り返り（前期最終）
- 18 回 後期授業概要、Excel 基本操作、画面構成（後期初回）
- 19 回 データの入力と編集、オートフィル
- 20 回 数式の入力
- 21 回 関数（1）；SUM, AVERAGE
- 22 回 関数（2）；COUNT, MAX, MIN

23 回 絶対参照と相対参照
 24 回 表の書式設定，表示形式
 25 回 表の編集
 26 回 グラフ（１）；円グラフ
 27 回 グラフ（２）；棒グラフ
 28 回 Excel 復習
 29 回 Excel 確認テスト
 30 回 Excel 確認テスト振り返り
 31 回 PowerPoint 基本操作，画面構成，新規プレゼンテーションの作成
 32 回 テーマ設定，テキストの入力と編集，箇条書き，フォントの設定
 33 回 図形，画像，アニメーション
 34 回 個人課題（１）
 35 回 個人課題（２），後期振り返り（後期最終）

じゅぎょう ほうほう
 授業の方法

コンピューター演習

きょうざい
 教材

よくわかる Word2021 & Excel2021，FOM 出版

ひょうか ほうほう
 評価の方法

授業中の取り組み態度 10%，課題提出 40%，テスト 50%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
 授業外での学習方法

予習 1h，復習 1h

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
 実務経験と授業科目の関係

あり

動物学習心理学

(授業概要)

トレーニングとは練習であり、いつでも速やかに実行するために練習する。従ってトレーニングですることと本番ですることは同じではないはずである。また動物飼育係には初級、中級、上級などのレベルがあり（施設ごとにランクの数やランクの基準は異なる）、それぞれのレベルで出来ること、すべきではないこと、してはならないこと（考えてはならないのではない）がある。言い方を変えれば教えなければいけないことがある。そしてどんなレベルにおいてもミスや問題も生じる。初級者は自分の手に負えない問題を正しく認識し、難しい問題はエスカレーション（より上レベルへの引継ぎ）する一方で簡単・些細な問題は対処しなければならない。本授業では学生たちが就職して前述のような課題にすぐに取り組めるような授業・指導を行う。

か 科	生命科学科	きょういん 教 員	山本 聡
コース	ワイルドアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教 員 の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	1 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

強化、主要強化子とブリッジ、LRS、タイムアウト、脱感作（考え方）について述べられるようになる。
ただし科学的根拠や明確な論理に基づいて説明し、相手に伝えられなければならない。
ABC 解析と WHY(HOW ではなく)の考え方の重要性を認識し、実践できるようになる。
自分の考えや意見をはっきりと言え、物事に常に疑問と興味を持つようになる。

授 業 計 画

- 1 回 (4/17) 前期開始 オリエンテーション（授業の組み立て、進め方などの説明）。
- 2 回 (4/24) 主要強化子と 2 次強化子、動物飼育に関わる責任。義務
- 3 回 (5/1) 動物飼育の知識・技術を野生動物の保全に活用する。
- 4 回 (5/8) 動物園・水族館の 4 つの機能。動物医療の現状と行政。
- 5 回 (5/15) ハズバンドリーとは（調餌の実際と衛生管理、栄養管理、動物医療）。
- 6 回 (5/22) 飼育動物の福祉、順応と適応
- 7 回 (6/5) 動物飼育に直接関わる者の一日（動画とその解説）
- 8 回 (6/12) 強化とは（オペラントの罰としつけの罰）
- 9 回 (6/19) ブリッジの性質と機能。正の強化子と報酬の関係、選好テストについて。
- 10 回 (6/26) パブロフの条件づけと高次条件付け。
- 11 回 (7/3) サインは弁別性刺激（未来のこと）、ブリッジは条件刺激（過去のこと）であること。
- 12 回 (7/10) 三項随伴性とは何か。メンテナンス・トレーニングとは。
- 13 回 (7/17) 学習と行動の変容。結果をすぐに望まない。
- 14 回 (7/24) レスポンドの消去とブリッジ。
- 15 回 (8/28) 前期期末試験対策の授業。
- 16 回 (9/4) 前期期末試験。
- 17 回 (9/11) 前期期末試験返却と正答解説

18 回 (9/18) 後期スタート、なぜ強化なのか、オペラントの正と負。
19 回 (10/2) 常同行動と脅迫症。
20 回 (10/9) ローレル・ブライトマンのプレゼンテーション (動画とその解説)。精神薬とは。
21 回 (10/16) 罰を使えない理由。言葉だけ叱ることは使えないこと。
22 回 (10/23) A B C の考え方。
23 回 (10/30) DRL、DRI、DRO とは。
24 回 (11/6) LRS の意味と使い方。
25 回 (11/13) タイムアウトとは。タイムアウトと負の強化。
26 回 (11/20) ドバイのペンギンのトレーニング(動画)と動物の行動生態。
27 回 (11/27) 強化の基準とポイント、行動の分解。
28 回 (12/4) リコールとは何の為のものか。「やり直し」のサインはないこと。
29 回 (12/11) P C トレーニングと F C トレーニング
30 回 (12/18) 脱感作と順化。
31 回 (1/8) 3 種類の脱感作。拮抗条件付けと予防法としての脱感作。
32 回 (1/15) なぜ、動物の行動マネジメントに「やり直し」「呼び戻し」は使えないか。
33 回 (1/22) 後期期末試験前対策の授業
34 回 (1/29) 後期期末試験
35 回 (2/5) 後期期末試験の返却と正答の解説。

授業の方法

基本的に毎月 2 回は対面授業で、それ以外はオンデマンド形式の授業で行う。講義中心。

教材

特に無いが、そのほか随時、必用に応じて学生に紹介する。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

毎回の授業中にとったメモを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。授業において指定された動画を Google で検索し視聴する。

実務経験と授業科目の関係

あり：専門は比較認知学、行動生態学、海洋哺乳類学、動物の行動マネジメント。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所および同大学海洋生物研究所・海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではザトウクジラ生態とハンドウイルカの認知機能の研究に携わり、後者では海洋哺乳類の知覚能力の実験研究と健康管理に携わる。日本では沖縄海洋研究所、あわしまマリンパークの飼育顧問を務め、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会会員。

飼育用品概論 I

(授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習し、環境エンリッチメントを考えるきっかけにする。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	生命科学科	教員	伊勢
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用法を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。

後期

生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

授業計画

- 1回 用品を選ぶ基準
- 2回 環境エンリッチメントについて
- 3回 小動物の特徴
- 4回 用品解説：ケージ①
- 5回 用品解説：ケージ②
- 6回 用品解説：隠れ家、寝床
- 7回 用品解説：トイレ
- 8回 用品解説：サークル、運動器具
- 9回 用品解説：遊び道具①
- 10回 用品解説：遊び道具②
- 11回 用品解説：床材
- 12回 用品解説：保冷器具
- 13回 試験対策
- 14回 前期期末試験(実施)
- 15回 前期期末試験(返却・解説)
- 16回 用品解説：保冷器具
- 17回 用品解説：メンテナンス用品①
- 18回 用品解説：メンテナンス用品②
- 19回 用品解説：給水器、餌皿
- 20回 用品解説：牧草

- | | |
|------|------------------|
| 21 回 | 用品解説：フード（草食性） |
| 22 回 | 用品解説：フード（肉食・雑食性） |
| 23 回 | 用品解説：おやつ |
| 24 回 | 用品解説：副食① |
| 25 回 | 用品解説：副食② |
| 26 回 | 小動物の販売形態について |
| 27 回 | 系統とカラーについて① |
| 28 回 | 系統とカラーについて② |
| 29 回 | 系統とカラーについて③ |
| 30 回 | ペット保険について |
| 31 回 | 試験対策 |
| 32 回 | 後期期末試験(実施) |
| 33 回 | 後期期末試験(返却・解説) |
| 34 回 | 小動物の病気と診察 |
| 35 回 | ペット業界が抱える課題点 |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
座学

きょうざい 教材
カラーアトラス エキゾチックアニマル

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験 80%、 しゅつせきりつ 平常点 20%（ じゅぎょうたいど 出席率、授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
生体管理実習での生体管理

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

陸上実習

(授業概要)

様々な運動競技を通して、校外実習や就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を図る。

科	生命科学科	教員	荻野 将士
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位時間	35×2 コマ

目標

前期

体力テストを行い自身の身体能力を把握する。

校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、体力/持久力/心肺機能の強化を行う。

校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける

後期

校舎外周の持久走や様々な運動競技を実施し、体力/持久力/心肺機能の強化を行う。

校外実習や研修旅行および就職時の際に必要な基礎体力を身につける

授業計画

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 体力テスト①
- 3 回 体力テスト②
- 4 回 体力テスト③
- 5 回 体力テスト④
- 6 回 体力テスト⑤
- 7 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 8 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 9 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 10 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 11 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 12 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 13 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 14 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 15 回 前期期末試験(実習テスト)
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)

- | | |
|-----|--|
| 18回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 19回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 20回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 21回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 22回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 23回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 24回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 25回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 26回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 27回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 28回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 29回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 30回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 31回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 32回 | 後期期末試験(実力テスト) |
| 33回 | 後期期末試験返却 |
| 34回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |
| 35回 | ランニング、筋力トレーニング、選択競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等) |

授業の方法

実習

教材

なし

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20% (出席率、授業態度等)

授業外での学習方法

自宅での体力向上のトレーニングを行う。

実務経験と授業科目の関係

あり

人間形成概論

(授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	生命科学科	教員	長岡 森田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

人間関係の基本となることを、グループワークや用語を知ることにより、実際の社会生活に活かせる術を身に付けていく。

前期

前期に続き、社会生活に活かせる術を身に付ける。

授業計画

- 1回 講師の自己紹介、生徒同士の自己紹介
- 2回 デスカッションのやり方 PREP法について
- 3回 パーソナリティについて
- 4回 対人認知 ステレオタイプ①
- 5回 対人認知 ステレオタイプ②
- 6回 人間関係とは①
- 7回 人間関係とは②
- 8回 インターネット依存症について
- 9回 感情について
- 10回 ストレスについて①
- 11回 ストレスについて②
- 12回 試験対策
- 13回 前期期末試験
- 14回 テスト返し 試験のフィードバック
- 15回 人間関係を理解する①
- 16回 人間関係を理解する②
- 17回 カウンセリング 悩み相談について①
- 18回 カウンセリング 悩み相談について②
- 19回 動機付け(モチベーション)①
- 20回 動機付け(モチベーション)②
- 21回 集団について①
- 22回 集団について②
- 23回 コーチング

- 24 回 リーダシップ
- 25 回 チームで仕事をするについて
- 26 回 人間関係を難しくする障害
- 27 回 試験対策
- 28 回 後期期末試験
- 29 回 後期期末試験
- 30 回 テスト返し 試験のフィードバック
- 31 回 前期のまとめ①
- 32 回 前期のまとめ②
- 33 回 後期のまとめ①
- 34 回 後期のまとめ②
- 35 回 社会にでることについて

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい
教材

適切な教科書がないため、授業ごとにまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているかを意識する。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

なし

昆虫学Ⅰ

（授業概要）

本授業では、昆虫の多様な特徴や生態について幅広く学ぶ。前期では、昆虫の形態、運動能力、食性、生殖、そして人との関わりなど、基礎的な内容を中心に扱う。後期では、水生昆虫や海洋島の昆虫、擬態、飛翔、社会性など、応用的かつ多様な話題に触れる。また、系統分類、外来種問題、希少種の保全といった現代的なテーマについても学習を進める。

科	生命科学科	教員	西中
コース	ワイルドアニマル	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	35

目標

前期

「昆虫とは何か」を説明できる。
昆虫の能力について説明できる。
昆虫の食性について説明できる。

後期

昆虫の擬態や飛翔、社会性昆虫について説明できる。
絶滅危惧種や外来種の昆虫について説明できる。
昆虫の分類の基礎について理解する。

授業計画

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 昆虫とは
- 3回 昆虫と人との関わり
- 4回 昆虫の体のつくり①
- 5回 昆虫の体のつくり②
- 6回 昆虫の運動能力①
- 7回 課題：昆虫の運動能力について
- 8回 昆虫の運動能力②
- 9回 昆虫の交信
- 10回 昆虫の生殖
- 11回 昆虫の食性について①
- 12回 昆虫の食性について②
- 13回 寄生者について
- 14回 前期期末試験対策
- 15回 前期期末試験
- 16回 前期試験フィードバック

- 17回 水生昆虫①
- 18回 水生昆虫②
- 19回 海洋島の昆虫
- 20回 擬態をする昆虫①
- 21回 擬態をする昆虫②
- 22回 昆虫の飛翔①
- 23回 昆虫の飛翔②
- 24回 社会性の昆虫①
- 25回 社会性の昆虫②
- 26回 益虫と害虫
- 27回 分子情報による系統推定
- 28回 希少な昆虫について
- 29回 外来種の昆虫たち
- 30回 冬季課題発表①
- 31回 冬季課題発表②
- 32回 試験対策
- 33回 後期期末試験
- 34回 後期期末試験フィードバック
- 35回 まとめ

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、グループワーク

きょうざい 教材

必要に応じて参考資料を配布する。

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度・しゅっせきりつ 出席率20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

授業で学んだことを復習することに加え、身近な昆虫の名前を少しでも多く覚えるよう自主的に学習する。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

大阪府立大学大学院生命科学研究科 元客員研究員。箕面公園昆虫館 元スタッフ。万博記念公園自然観察学習館 元指導員。関西大学 元非常勤講師。